

2023.2.28

第6回りっけん女性塾オンライン・トーク

国際スタンダードの 包括的性教育を！

染矢 明日香（NPO法人ピルコン 理事長）



PILCON
THINK ABOUT LOVE & LIFE!

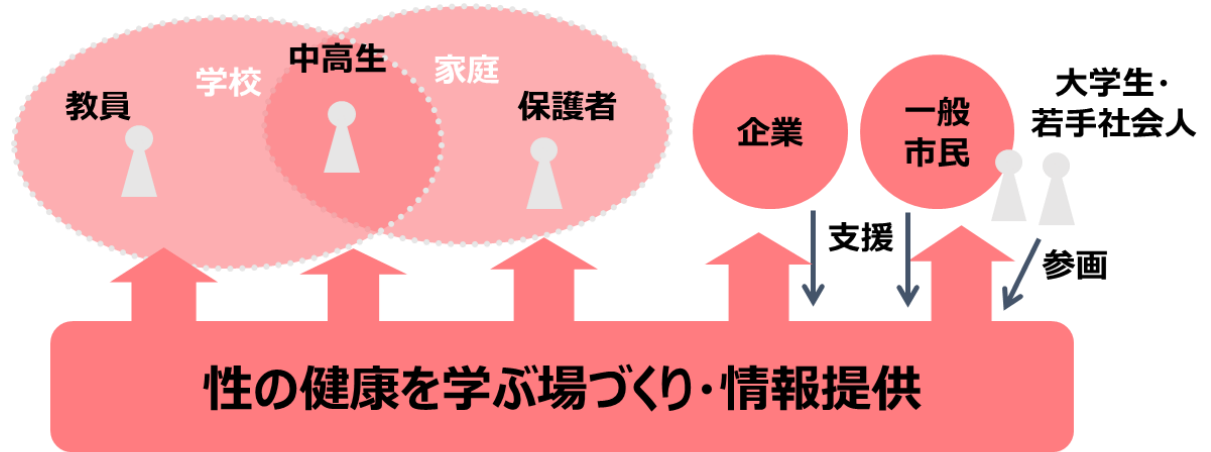
ピルコンとは：

Program for **I**deal **L**ife through **C**ommunication & **N**etworking



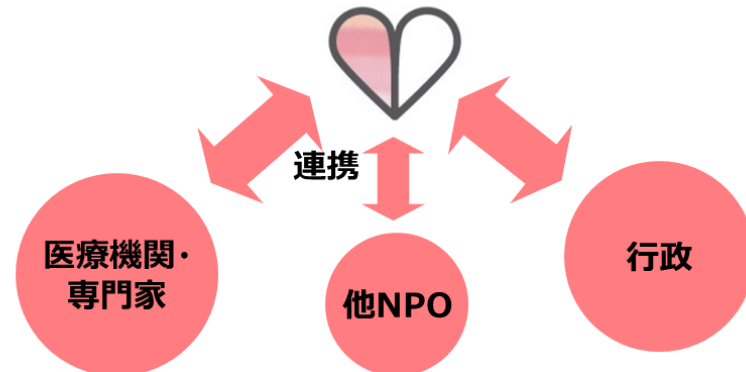
NPO法人ピルコン

- 設立：2013年10月
(2007年より活動開始)
- スタッフ：52名
(ボランティア含む)
- 活動地域：
関東圏を中心とする日本全国



大切にしていること

- P**ositive
- I**nclusive
- L**ove yourself
- C**ollaboration
- O**pen mind
- N**o violence
- E**vidence based
- Y**outh centered



学習指導要領の「はどめ規定」

■ 小学5年の理科：
「人の受精に至る過程は取り扱わないものとする」



■ 中学1年の保健体育科：
「妊娠の経過は取り扱わないものとする」

性交や避妊は
教えてはいけない…？

いわゆる「はどめ規定」は「教えてはならない」ことではなく、
すべての子どもに共通に指導するべき事項ではないという趣旨

中央教育審議会平成20年1月17日

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」



指導の際は、下記の4点に留意

- ・ 児童生徒の発達段階を考慮すること
- ・ 学校全体で共通理解を図ること
- ・ 保護者や地域の理解を得ること
- ・ 集団指導と個別指導の内容の区別を明確にすること

性にかかわる様々な社会課題

性情報の氾濫



性教育の不足

性のタブー感により、様々な性に関わる問題が起きている

- ✓ 日本の年間人工妊娠中絶件数は約13万件*1
(うち、10代は約9000件、15歳以下は約400件)
- ✓ 若者に性感染症が広がり、特に梅毒の感染者が急増*2
- ✓ SNSに起因する性被害児童数は高い水準で推移*3

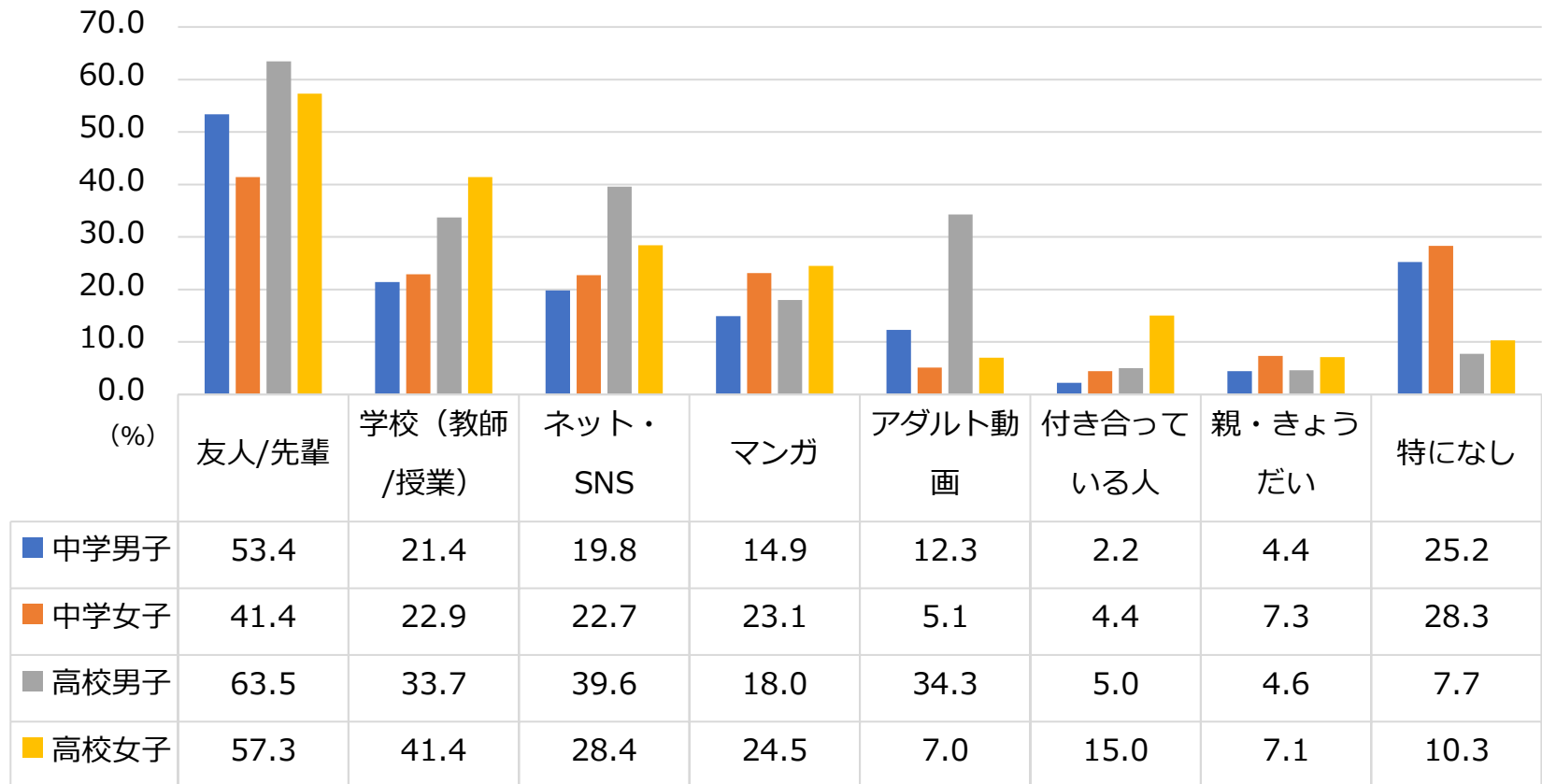
*1:令和3年度厚生労働省「衛生行政報告例の概要」

*2:2020年1月 国立感染症研究所「日本の梅毒症例の動向について」

*3:令和3年警察庁「少年非行、児童虐待及び子供の性被害」

中高生の性情報源【性交について】

性交の情報源（複数回答可）



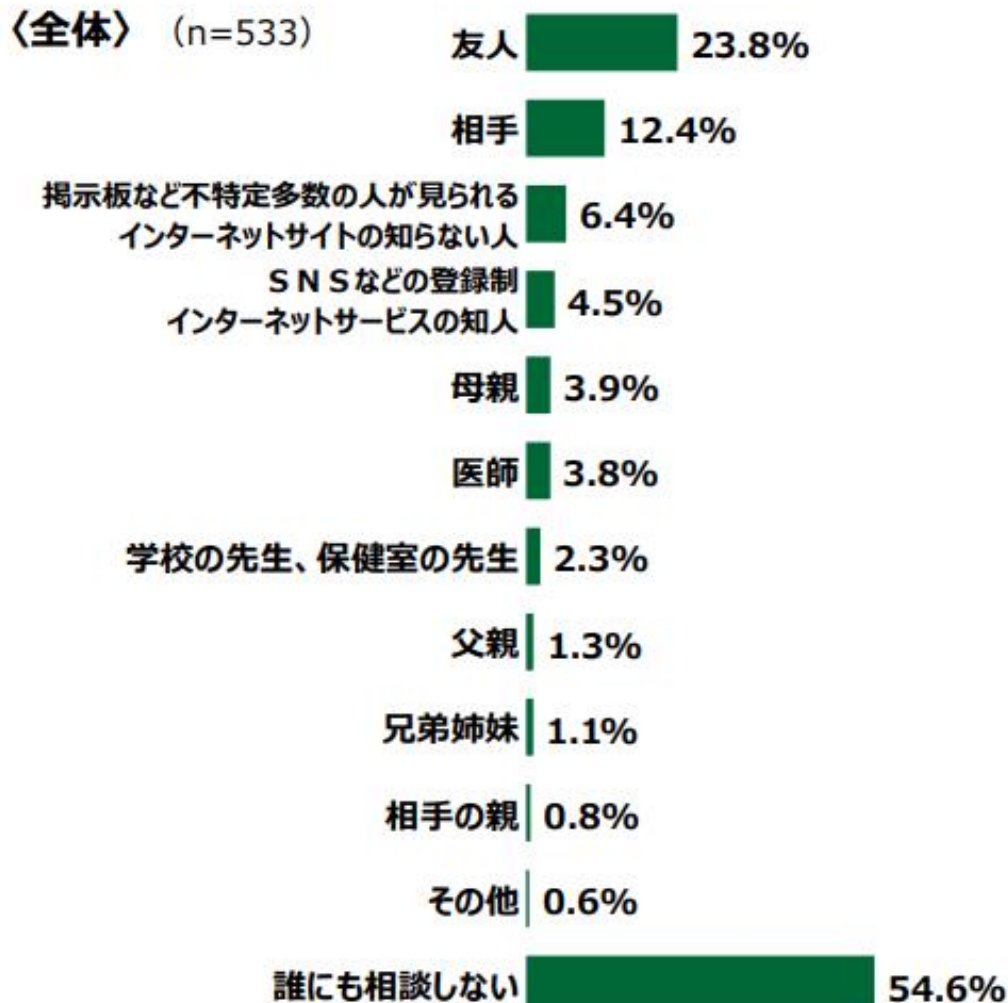
日本性教育協会編（2019）『若者の性白書』小学館より作成

無断転載・転用禁止

若者が避妊方法に不安を感じても大人・専門家に相談しづらい

■ 避妊方法への不安を感じたことがある方

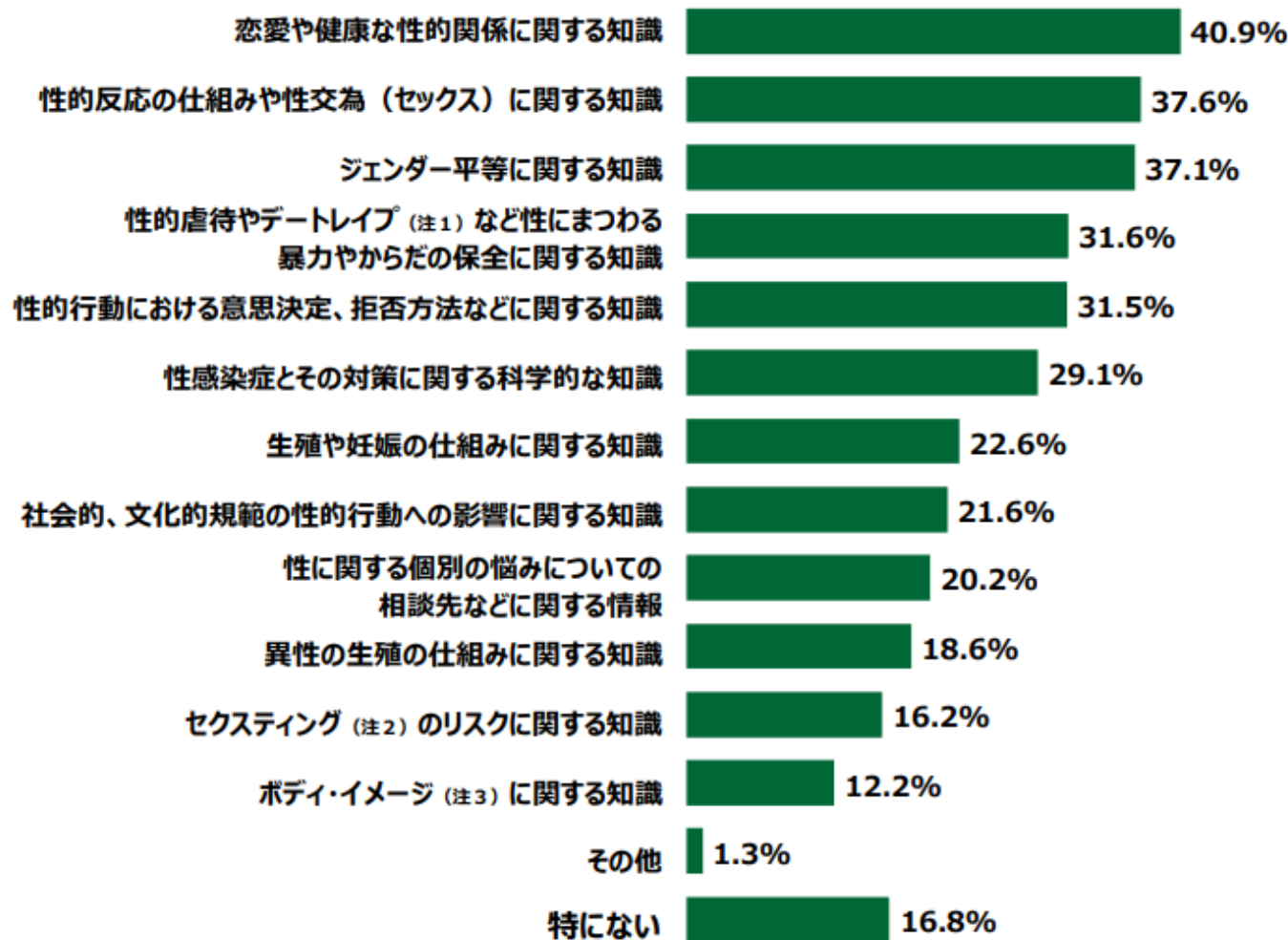
Q 不安を感じた際に、誰かに相談できましたか。(複数回答)



日本財団 18歳意識調査
「第39回 - 性行為 -」
(2021年)

恋愛、性行為、ジェンダー平等、性暴力を学びたいニーズ

Q 学校での性教育で、もっと深めてほしかった内容をいくつか選んでください。（※回答拒否者除く n=940）

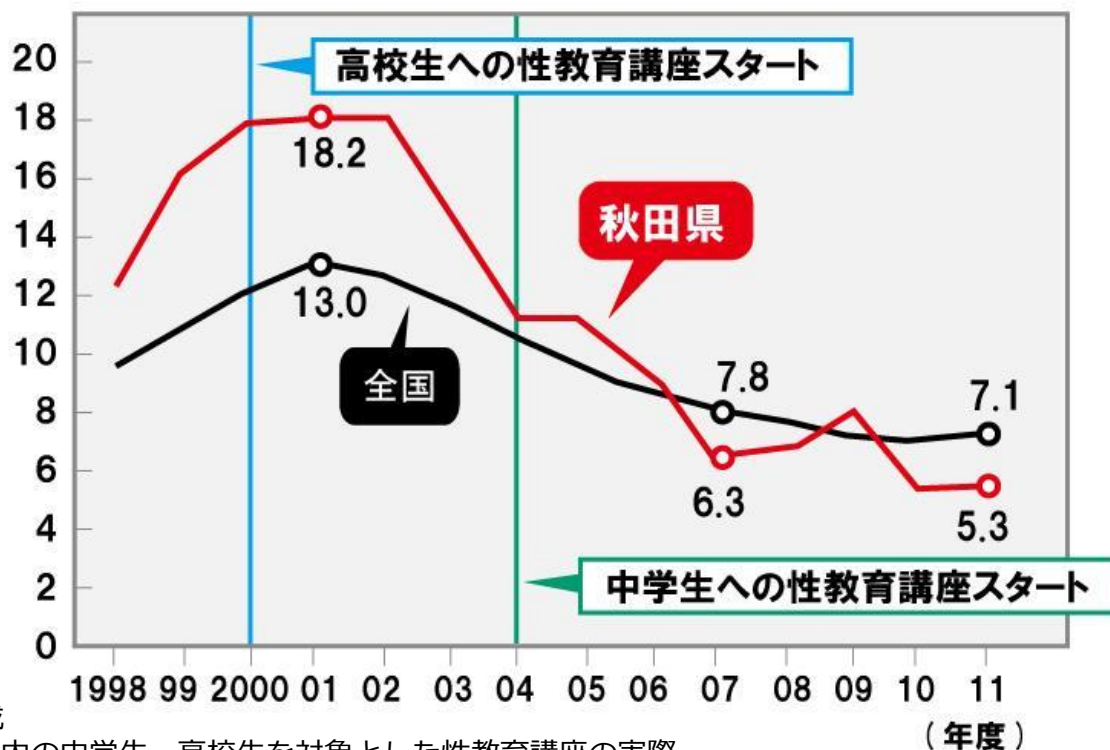


日本財団 18歳意識調査
「第39回 - 性行為 -」
(2021年)

国内でも秋田県では中学生・高校生への性教育講座事業開始後、10代の中絶率が大幅に減少

秋田県教育委員会と秋田県医師会が連携し、県内の中学校・高校への出張講演や、教員のサポートを実施

秋田県の10代の人工妊娠中絶率 (15歳～19歳の女子人口1000人対)

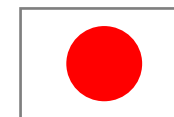


秋田県教育庁資料より作成

参考：志賀, 2015, 秋田県内の中学生・高校生を対象とした性教育講座の実際

無断転載・転用禁止

性教育の国際スタンダードと日本の比較



生物や健康の科目を
中心にカリキュラム化

性教育で扱う
内容の最低基準

学習指導要領に基づく

年12~20時間

5歳~18歳以上の年齢層で
くりかえし学ぶ

性教育の時間

平均年約3時間

(中学校)

若い年齢から人権教育として
性に関することを幅広く
詳しく学ぶ

性教育の内容

性交・妊娠の学習内容を
制限するはどめ規定がある

参考：『教科書に見る世界の性教育』

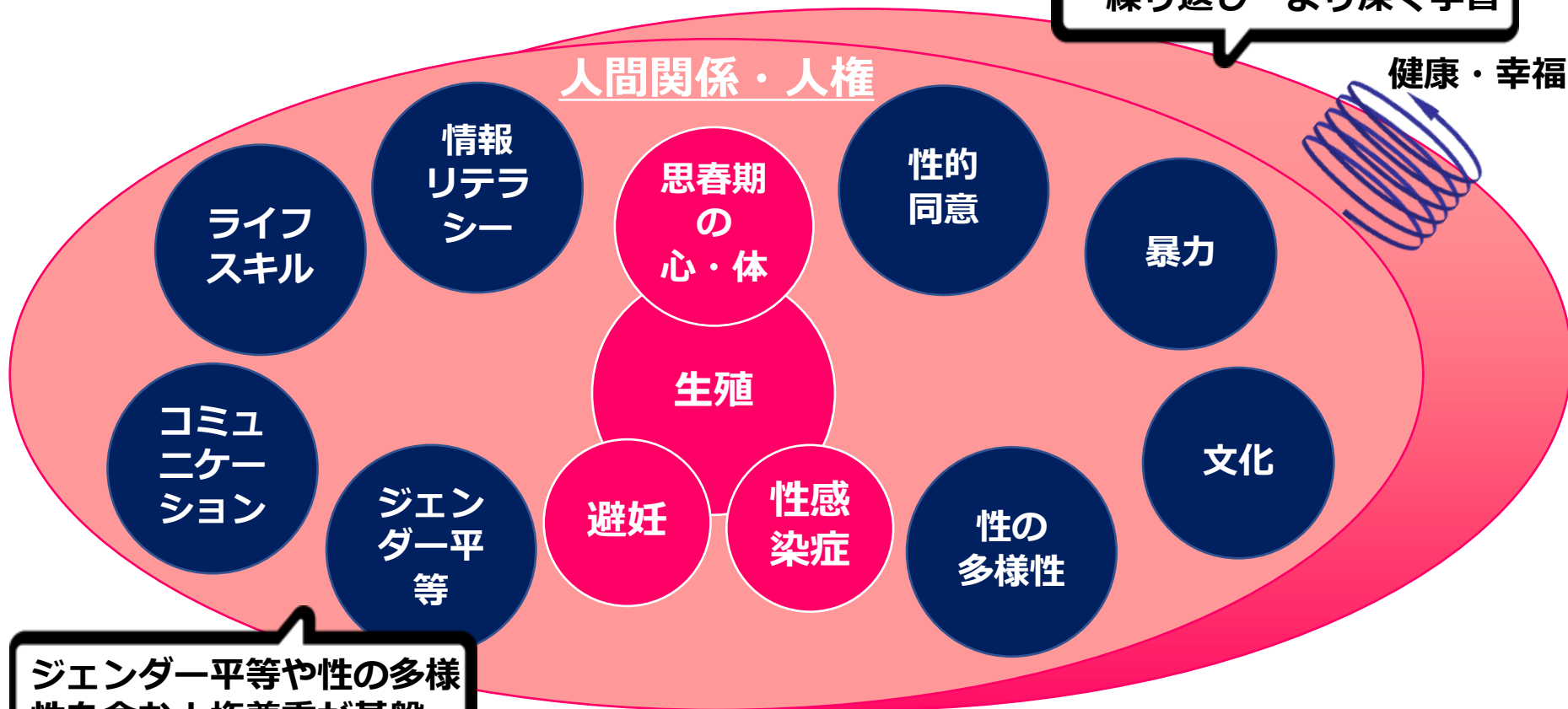
包括的性教育（包括的セクシュアリティ教育）

<CSE : Comprehensive Sexuality Education>

性を生殖・性交のことだけでなく、人権教育を基盤に人間関係を含む
幅広い内容を体系的に学ぶ

発達段階に応じて
繰り返し・より深く学習

健康・幸福



ジェンダー平等や性的多様性を含む人権尊重が基盤

国際セクシュアリティ教育ガイダンス

International Technical Guidance on Sexuality education

- ユネスコらが国際機関と連携し作成・発表（2009年初版、2018年改訂）
- 世界中の包括的性教育の実践を調査し、科学的根拠と人権的アプローチに基づくガイドライン
- 5歳から18歳以上までの子ども・若者を対象に各年齢に適したカリキュラムを示す



子どもや若者たちに、**健康とウェルビーイング、尊厳**を実現し、**選択がどのように影響するのか**を考え、**生涯を通じて権利を守ることにエンパワーメント**しうる知識やスキル、態度や価値観を身につけさせることが目的とされる

参考：ユネスコ『改訂版 国際セクシュアリティ教育ガイダンス』
<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000374167>



包括的性教育とは

包括的性教育は以下の形で提供される

- 科学的に正確であること
- 徐々に進展すること
- 年齢・成長に即していること
- カリキュラムベースであること
- 包括的であること
- 人権的アプローチに基づいていること
- ジェンダー平等を基盤にしていること
- 文化的関係と状況に適応させること
- 変化をもたらすこと
- 健康的な選択のためのライフスキルを発達させること

また、受け身で知識を得るだけでなく、「**学習者が中心となるアプローチ**」が学びを深めるために有効であり、**若者が居心地よく参加し、プライバシーが保護されている**ことが重要ともされている。

参考：ユネスコ『改訂版 国際セクシュアリティ教育ガイダンス』

国際セクシュアリティ教育ガイダンスのキーコンセプト

- 1 人間関係
- 2 価値観、人権、文化、セクシュアリティ
- 3 ジェンダーの理解
- 4 暴力と安全確保
- 5 健康とウェルビーイング（幸福）のためのスキル
- 6 人間のからだと発達
- 7 セクシュアリティと性的行動
- 8 性と生殖に関する健康

4つの年齢グループが設定

- ① 5歳～8歳
- ② 9歳～12歳
- ③ 12歳～15歳
- ④ 15歳～18歳

参考：ユネスコ『改訂版 国際セクシュアリティ教育ガイダンス』

無断転載・転用禁止

性の健康や人間関係を学べる動画「AMAZE」

アメリカNGOによる包括的性教育動画（ピルコンが日本語訳）

思春期



多様な性のあり方



性暴力・
性情報の関わり方



保護者向け



健康的な人間関係



性感染症



妊娠・出産・避妊



<https://pilcon.org/activities/amaze>

包括的性教育による様々な効果

包括的性教育の効果



出典: UNICEF『The opportunity for digital sexuality education in East Asia and the Pacific』
<https://www.unicef.org/eap/media/3686/file/Digital.pdf>

2021年～生命（いのち）の安全教育の推進

性犯罪・性暴力対策の強化の方針：「性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないよう、学校教育がより大きな役割を果たしていくことが必要」

- ▶ 幼児期・小学校低学年：水着で隠れる部分は他人に見せない、触らせない、もし触られたら大人に言う、他人に触らない
- ▶ 小学校高学年・中学校：SNS等で知り合った人に会うことなどの危険や被害にあった場合の対応
- ▶ 中学校・高校：デートDV、性被害の相談先
- ▶ 高校・大学：レイプドラッグ、お酒と性行為・セクハラ、性被害の相談先・対応
- ▶ 障害のある児童生徒等について、個々の障害の特性や程度等を踏まえた適切な指導の実施

課題：

- ・ 学習指導要領に基づくため、性交・避妊の十分な理解につながるか
- ・ 指導する側の教員の十分な研修機会が確保できるのか

セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス&ライツ (SRHR : 性と生殖に関する健康と権利)

参考 : ジョイセフ「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは」

性や子どもを産むこと全てにおいて、単に病気がないだけでなく、**身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態 (well-being)** であり、自分の身体に関することを、**自分自身で決められる権利** (1994年国際人口開発会議)

- ・ 子どもを産むか産まないか、産むならいつ産むか、何人産むかを定めることができること
- ・ 安全で満ち足りた性的経験をすることが可能を持つことができること
- ・ ジェンダーに基づく暴力によって傷つけられないこと
- ・ 強要を受けることなくセクシュアリティを表現できること
- ・ そのための必要なサービスを受けられること

2019年 性の健康世界学会 (WAS) にて「SRHR + Pleasure」が宣言

無断転載・転用禁止